



KANSAILCITONICA
PHILHARMONICA
ORCHESTRA

THE 46TH
SUBSCRIPTION CONCERT

関西シティフィルハーモニー交響楽団 第46回定期演奏会

主催—関西シティフィルハーモニー交響楽団
協賛—株式会社 ASK PLANNING CENTER

2008年9月14日 [日] 14:30
ザ・シンフォニーホール

関西シティフィルハーモニー交響楽団

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA
(社)日本アマチュアオーケストラ連盟加盟団体 / 大阪文化団体連合会会員団体



2008年5月10日、ザ・シンフォニーホール、第45回定期演奏会

1974年各大学オーケストラの卒業生を主たるメンバーとして、関西OB交響楽団の名称で結成。1994年創団20周年を機に現在の団名に改称。“アマチュア精神に基づく、グレードの高い社会人オーケストラ”をモットーに、年間2回の定期演奏会をはじめファミリーコンサート等を、意欲的に開催しています。近年は指導体制の充実と力点を置き、有能なプロの先生方を指揮者や指導スタッフに招聘して研鑽を積んで参りました。中でも、1998年より4年間、ズラタン・スルジッチ氏(現ドゥブロヴニク交響楽団首席指揮者)を常任指揮者に招聘し、その指導を仰いだことにより「音楽的に大きな飛躍を遂げた」と

の評価を内外から得ております。また組織としても「若い力」を積極的に運営面に活かし、“常に成長するオーケストラ”を目指して努力を重ねております。2004年8月に大阪市で開催された「全国アマチュアオーケストラフェスティバル大阪大会」では、開催主管団体として、当団の組織力を遺憾なく発揮し、フェスティバル成功の原動力として、連盟をはじめ全国のアマチュアオーケストラ各位から、高い評価と大きな賛辞を頂くことができました。毎週土曜日の夜、指揮者やトレーナーの先生方の指導のもと、真剣な練習を行っており、現在団員数は、約100名を有します。

ごあいさつ



阿保 幸雄 Sachio Abo

関西シティフィルハーモニー交響楽団 団長

本日は、私共の第46回定期演奏会によるご越し下さいました。

今回、1年ぶりにゴギさん(ギオルギ バブアゼ氏)に定期演奏会の指揮者としてご登場いただきます。当団の常任指揮者になっていただいて既に3年半、もうすっかり私共と息が合っており、氏の要求されるオーケストラの音色を出せるようになってきたと自負しています。

前半のステージでは皆様お馴染みの曲を演奏いたします。曲名に心当たりが無くても聴かれればアーあ曲かとお存知の曲で、どうかお気軽にお聴き下さい(とはいえ我々は冷や汗もので必死になって演奏しているのですが)。第40回記念定期演奏会でのR. シュトラウスの「英雄の生涯」で至難のバイオリンソロを見事に演奏し絶賛を博した我がコンサートミストレス西田美音子が、今回は「仮面舞踏会」の2曲目で美しいソロを甘

くなく演奏致します。ご期待下さい。

さて、後半のステージが問題です。十数年前に或るクラリネット奏者が入団してきました。

彼は熱狂的なこのラフマニノフの第2シンフォニーのファンで、すぐにこの曲を定演で取り上げるよう選曲会議に熱心に提案しました。この曲は美しいメロディーに満ち溢れていてまるで映画音楽のようだと言われる。その部分の演奏は本当に気持ちが良いのですが、一転、速いパッセージの部分が大変な難物なのです。彼の提案は10年以上無視され続けてきました。業を煮やした彼は選曲議員に立候補して、ついに今回念願を果たしました。クラリネットのトップ奏者の幸せそうな顔にご注目下さい。

末筆となりましたが、ご来聴の皆様方には今後とも当団に対し、温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

関西シティフィルハーモニー交響楽団

第46回定期演奏会 2008年9月14日 [日] 14:30
ザ・シンフォニーホール

指揮—ギオルギ・バブアゼ 管弦楽—関西シティフィルハーモニー交響楽団

グリンカ

歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

ハチャトゥリアン

組曲「仮面舞踏会」

I. Waltz

II. Nocturne

III. Mazurka

IV. Romance

V. Gallop

ラフマニノフ

交響曲第2番

I. Largo - Allegro moderato

II. Allegro molto

III. Adagio

IV. Allegro vivace

グリンカ

歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

ミハイル・グリンカ（1804～1857）はヨーロッパで高い評価を受けた最初のロシア人作曲家である。経済的に恵まれた境遇からイタリアで作曲理論を学び、諸外国で勉強する機会を得て西洋文化を吸収したグリンカだったが、次第にロシアの民族音楽を積極的に作品に取り入れるようになる。当時のロシア貴族はドイツ音楽やイタリア・オペラに熱狂しており、グリンカの作品は冷ややかに受け止められたが、西洋音楽とロシアの民族音楽を融合させたグリンカの作風は「ロシア五人組」（ムソルグスキー、ボロディン、リムスキー＝コルサコフ等）を初めとするロシア人作曲家に大きな影響を与え、やがてロシア国民楽派の台頭を招いた。現在も演奏されるグリンカの作品は歌曲「ひばり」やヴィオラ・ソナタなどごくわずかであるものの、近代ロシア音楽の父と呼ばれる地位を確立している。

「ルスランとリュドミラ」はロシアの文豪アレクサンドル・プーシキンの詩を原作としている。キエフ大公の娘・リュドミラは、

騎士ルスランとの婚礼の最中に魔術師・チェルノモールにさらわれてしまう。ルスランが善良な魔術師・フィン力を借りてチェルノモールを倒し、再びリュドミラと結ばれるまでを描く冒険活劇だが、初演は失敗に終わった。全5幕と冗長なおペラそのものは現在では上演される機会はほとんど無いのに対し、軽快な序曲は演奏会のオープニングやアンコール・ピースとして大変人気がある。（大運動会のような弦楽器にとっては、ウォーミングアップにも演奏会の最後にもいささか酷なようにも思われるが…）曲は典型的なソナタ形式で、ヴァイオリン・ヴィオラ・フルートによる第一主題は婚礼の華やかさを表し、ヴィオラ・チェロ・ファゴットによる第二主題はルスランのアリアを奏でている。終結部には中低弦・ファゴット・トロンボーンに表れる下降音階がチェルノモールを表す等、劇中のライトモチーフがちりばめられた楽しい一曲に仕上がっている。

太田真紀子（ヴァイオリン）

ハチャトゥリアン

組曲「仮面舞踏会」

ハチャトゥリアン（1903–1978）は「ガイーヌ 剣の舞」を代表曲とするグルジア出身の旧ソビエトの大作作曲家です。グルジア地方の音楽は、ロシア、イラン、トルコに挟まれ、大国の利害の下の圧政に苦しみ、その動乱の中にあっても、独自の音楽性をもち、強いスラブ的な民族性を確立してきました。ハチャトゥリアンは演劇への思いが非常に強く、「音楽で自分の思いを満たせないなら、俳優になった」と公言するほどで、コメディ・サスペンスを含む劇場音楽を数多く残しています。今回演奏する仮面舞踏会は、ミハイル・レールモントフ（1814–1841）が書いた戯曲「仮面舞踏会」の1941年の上演にあたって付随音楽として作曲された全14曲の内、1944年にハチャトゥリアン自身が5曲から成る組曲として構成したものです。戯曲「仮面舞踏会」のあらすじは、「妻のニーナが仮面舞踏会でなくした腕輪をきっかけに主人公のアルベーンが嫉妬し、ついに毒殺するという悲劇」（全音楽譜出版社のポケットスコアより）というもので、19世紀ロシアの貴族社会への軽蔑と侮蔑、そして反逆の精神を貫いていますが、ハチャトゥリアンの仮面舞踏会はそういった悲劇的な要素は感じられず、純粋に音楽を楽しんでいただけるものと思います。気軽に、楽しく、ハチャトゥリアンの音楽と楽団員の演奏風景をご覧ください。

その5曲を紹介すると、

I. Waltz 組曲を作るにあたり、一番に力を注いだといわれる曲です。ウィーンのワルツとは大きく異なり、短調であり、広い音域の中に半音をふんだんに使い、荘厳な趣を表現しており、仮面をつけて踊る帝政ロシア貴族が目には浮かぶ様です。ボールのCMにも使われ、今年のフィギュアスケート浅田真央さんのフリースケーティングにも使われる予定です。

II. Nocturne ヴァイオリンの為の小さな協奏曲として作曲された曲です。静けさを表現するホルンの和音から美しいヴァイオリンのソロが奏でられます。我がコンミス西田美音子の美しい音色をお楽しみ下さい。

III. Mazurka やや早い3拍子のポーランドの民族舞踊の曲ですが、ハチャトゥリアンらしい、躍動的なテーマに始まり、細かいステップや大きなステップが交錯し、いまにも踊りだしたくなるような曲となっています。

IV. Romance ヴァイオリンによるメロディが様々な楽器に移り、叙情的に唄われています。

V. Gallop 本来、2拍子の早い輪舞の曲ですが、序奏の後、ドキッと不協和音のメロディで始まり、変調あり、緩急あり、クラリネットや打楽器の特徴的な音色が印象的です。

森川裕（ヴァイオリン）

ラフマニノフ 交響曲第2番

セルゲイ・ラフマニノフは1873年にロシアで生まれ、1943年にアメリカで没した。天才ピアニストとして早くから注目され、指揮者としても優れた業績を残したが、彼の意識の中では作曲家としての志向が最も強かったと言われている。チャイコフスキーからも絶賛された彼の作品の中でも、ロシア的憂愁を深くたたえた「ピアノ協奏曲第2番・第3番」や「ヴォカリーズ」などは、わが国でも多くのファンを獲得している。

そんな彼であるが、その作曲作業は何度も中断されている。ピアニストや指揮者の仕事が多忙であったこともあるが、最大の原因は彼の性格的な弱さにあった。何をすることも自信が無く、常に人からの評価を気にしていたラフマニノフは、いちいちその言葉を真に受けてしまう。絶賛されれば有頂天になるが、批判されれば意気消沈し、創作の手が止まるのだ。「交響曲第1番」の初演に失敗し、痛烈な批判を浴びたことで神経衰弱に陥り、精神科医の世話になったのは有名なエピソードである。

その後彼は、精神を掻き乱す一切から逃れるようにして、1906年より3年間ドイツのドレスデン郊外に拠点を移し、創作活動に専念する。この「交響曲第2番」は、そんな比較的平穏な時期の作品である。

第1楽章 (Largo - Allegro moderato)

序奏はラフマニノフの苦悩、自身の存在に対する問いである。続く第1主題より前進を始めた彼は、程なくして逆境を前にその歩みを遮られる。様々な事件に翻弄された彼の半生のように、その曲想は様々な感情の間を行き来する。

第2楽章 (Allegro molto)

第2主題の情緒的な曲想は、頂点に達する直前にいきなり不安の中へと投げ出される。また、中間部のグロテスクな8分音符の乱舞は、いつしか軽快な行進曲へと変容する。ラフマニノフの逆説的な人生観を象徴しているかのようだ。

第3楽章 (Adagio)

ラフマニノフの得意とするロマンティックさがストレートに発揮され、ある意味ロマン派的表現の最高傑作となっている。「深い悲しみに裏打ちされた幸福感」とも言える、美しくも物悲しいその旋律もまた、彼の逆説なのだろうか。序奏の問いに対する回答でもある。

第4楽章 (Allegro vivace)

このきらびやかなフィナーレは、一見ハッピーエンドを思わせる。しかし、前楽章でラフマニノフが得た回答は、実は新たな苦悩の始まりであった。むしろ展開部において、下降音形を繰り返しながら高揚するエネルギーに、生きる意志の力を見

出し、そこに真の救いを見出すことができる。

ところで、私たちがこの曲の練習を始めたころ、奇しくもラフマニノフを描いた映画、「ラフマニノフ ある愛の調べ」が上映されていた。映画では、繊細で複雑な彼の性格が克明に描写されていたが、この曲の第3楽章を愛して止まない筆者としても、彼の人となりは大いに興味のあるところである。

最後に、もう少しラフマニノフの内面に触れながら、この曲が作曲された動機について、筆者なりの解釈を試みたいと思う。

ラフマニノフは苦悩の人であり、様々な逆境が彼を苦しめた。しかし最も彼を苦しめ続けたものは、他ならぬ彼自身ではなかっただろうか。人の評価を気にし過ぎる性格的弱さが、常に自分の本心を押さえつけ、自ら魂を牢獄に閉じ込めてきたのだ。しかしまた彼は、この弱さこそが、繊細過ぎる神経こそが、自分の音楽の源泉であることも十分理解していた。それでは、彼は、この苦悩から開放されることのできないのだろうか？

第3楽章において、彼はひとつの旋律を最後まで丁寧に歌い切っている。言いたいことは語り尽くすまで、感情の高まりはそれが自然に収まるまで……こうして彼は、自分の精神を徹底的に開放することを試みる。このことは、自己を受け入れることとなり、大きな気づきに至る道となった。憎しみさえ抱いていた自分の弱さも、愛すべき自分自身だったのだ。ならば、これからも弱い人間として生きれば良いではないか。自分の弱さに苦悩し続けながら生きれば良いではないか。それが、セルゲイ・ラフマニノフとしてこの世に生まれ、生きる意味なのだ！

思えば彼は若い頃、「交響曲第1番」の作曲によって、何者かになろうとしていた。賞賛を得、名声を得（さらには、ある女性を得ようとしていたとの説もある）、多くを自分の外側にくっ付けて、何者かになろうとしていた。しかし今、彼は自分自身になろうとしている。他の何者でもない、セルゲイ・ラフマニノフとして生きてゆく決心をしたのだ。

この「交響曲第2番」は、様々な曲折を経て彼が到達した、そんな宣言が込められた曲だと思うのである。

細野巖 (クラリネット)

George Babuadze



ギオルギ・バブアゼ 指揮

関西シティフィルハーモニー交響楽団 常任指揮者

მუსიკა საზღვრების გარეშე

Музыка без границ

音楽に国境無し

1962年グルジア共和国トビリシ生まれ。トビリシ国立音楽院にてシウカシュヴィリ教授にヴァイオリンを、オディセイ・ディミアディアディー氏に指揮を学ぶ。モスクワにてポロディン弦楽四重奏団のベルリンスキー氏に師事。1986年より5年間バトゥーミ市交響楽団の指揮を務める。1990年よりグルジア音楽協会室内管弦楽団の芸術監督および首席指揮者を務め、フランス、ドイツへ演奏旅行。その他、国内外におけるオーケストラのヴァイオリン奏者としてイタリア諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍。1996年より大阪シンフォニカー交響楽団のコンサートマスター、2001年10月より関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。2002年4月より京都市立芸術大学ヴァイオリン専攻科非常勤講師も務める。トビリシ弦楽四重奏団メンバー。2005年より、関西シティフィルハーモニー交響楽団常任指揮者就任。

■VIOLIN

◎西 田 美音子
 稲 葉 宏 己
 岡 崎 雅 樹
 ◎小野寺 慶 太
 片 山 敦 子
 ○加 藤 孝 司
 加 藤 裕 紀 子
 河 盛 晶 子
 神 田 靖 子
 小 林 有 希
 坂 上 美 保 子
 坂 元 由 妃
 佐 向 恵 子
 島 津 知 華
 島 隅 谷 恭 子
 田 中 貴 子
 豊 島 直 子
 中 谷 日 出 夫
 中 谷 道 代
 難 波 千 里
 西 村 悠 美
 橋 本 敏 彦
 樋 口 貴 雄
 平 下 祐 子
 藤 田 恵 子
 益 子 一
 宮 宇 地 秀 和
 森 川 裕
 山 本 真 弓
 石 田 知 子 (賛助)
 磯 辺 陽 (客演)
 岡 本 名 那 子 (賛助)
 野 村 初 葉 (賛助)

■VIOLA

有 馬 夕 稀
 市 川 眞 紀 子
 井 戸 義 訓
 入 江 隆
 太 田 眞 紀 子
 岡 恵 子
 川 端 成 彬
 更 谷 直 子
 高 田 千 尋
 ○田 中 景 子
 坂 東 佑 二 郎
 福 田 文 治
 松 本 光 世
 宮 崎 友 彰
 ■VIOLINCELLO
 ○安 彦 郁
 阿 保 幸 雄
 岩 田 倫 和
 上 田 眞 紀 子
 小 野 田 素 大
 梶 元 正 三
 坂 元 正 三
 豊 島 正 誠
 橋 本 美 代
 廣 瀬 恵 子
 ■DOUBLE BASS
 安 彦 義 哉
 稲 葉 杏 子
 清 水 奈 緒
 長 岡 豊
 松 本 昌 大
 ○安 近 紀 子
 渡 辺 昭 一
 岡 田 典 子 (客演)

■FLUTE

浅 井 葉 子
 姜 愛 順
 ○芝 野 均
 片 山 朋 子 (客演)
 ■OBOE
 岡 田 啓
 勝 山 貴 美 子
 酒 井 洋
 ○西 山 健 市
 波 留 ひとみ

■CLARINET

安 彦 聡 子
 ○打 田 正 樹
 栗 山 明 子
 芝 野 範 巖
 細 野 巖

■FAGOTT

○一ノ瀬 圭 子
 竹 内 郁 夫
 片 寄 伸 也 (賛助)

■HORN

○織 田 克 洋
 酒 井 星 子
 西 山 順 子
 廣 橋 麻 理 子
 山 科 幸 生
 山 部 義 幸
 安 彦 高 志 (客演)
 塚 本 真 衣 (客演)

■TRUMPET

残 熊 祐 治
 西 川 倫 史
 ○廣 橋 誠 司
 山 田 浩 之

■TROMBONE

柏 岡 亨
 ○金 昌 信
 正 岡 千 明

■TUBA

藤 川 健
 古 口 賢 一 (賛助)

■PERCUSSION

橋 淳 士
 ○田 村 千 春
 吉 田 恭 子
 坂 井 望 (客演)
 三 宅 千 絵 (客演)

□団長 阿 保 幸 雄
 □副団長 柏 岡 亨
 □運営委員長 山 科 幸 生
 □チーフパトリリーダー 廣 橋 誠 司 (兼インスペクター)
 □インスペクター 小 野 寺 慶 太
 □総務 雅 樹 樹 洋 三 誠 史 幸
 岡 織 田 元 欒 富 西 川 山 部
 □会計 田 村 千 春
 □人事 山 本 真 弓
 □IT 岩 田 倫 和
 □ライブラリアン 井 戸 義 訓
 □楽器 橋 淳 士
 □団費 勝 山 貴 美 子
 □友の会 正 岡 千 明
 □会計監査 長 岡 豊
 □桂冠団員 大 川 進 一 郎 豊 齊 (相談役)
 桂 松 田

◎…コンサートミストレス
 コンサートマスター

○…パトリリーダー

□トレーナー 池 田 重 一 中 橋 葉 子 弘 也 郎
 岩 井 英 樹 谷 本 好 哲
 高 野 本 昌 里 林 三 三 好
 谷 田 野 里 香 哲 也 郎
 池 田 重 一 中 橋 葉 子 弘 也 郎
 岩 井 英 樹 谷 本 好 哲
 高 野 本 昌 里 林 三 三 好

第47回定期演奏会

2009年 **2 | 8** 日

午後2時30分開演予定
ザ・シンフォニーホール

指揮—ギオルギ・バブアゼ [予定]

マーラー：交響曲第2番「復活」

ソプラノ—畑田弘美

メゾ・ソプラノ—福原寿美枝

合唱—関西シティフィルハーモニー合唱団

第7回池田ファミリーコンサート

2009年 **5 | 31** 日

午後3時開演予定
池田市民文化会館 アゼリアホール

モーツァルト：レクイエム 他

第48回定期演奏会

2009年 **9 | 20** 日

午後2時30分開演予定
ザ・シンフォニーホール

曲目未定

演奏会の詳細につきましては、予告なく変更することがございますので、予めご了承ください。

関西シティフィルハーモニー交響楽団ホームページ

<http://kcpo.jp>

団員募集の
お知らせ

- ヴァイオリン
- ファゴット
- ホルン

募集中

練習日時 毎週土曜日 午後6:30～9:30
練習場所 北出音楽事務所 (JR・京阪「京橋駅」から徒歩10分)
お問い合わせは事務局まで [06-6136-1737]
◎事務局が変わりました。ご注意ください◎
なお、当団のホームページでも最新の団員募集情報を公開しております。

関西シティフィルハーモニー交響楽団
友の会

会員募集のお知らせ

当団では「友の会」の会員を募集致しております。会員になられますと ■当団主催演奏会のご案内 ■特別優待価格でのご入場 ■友の会特別席のご用意 等の特典があります。入会金、会費無料!!

友の会会員 お申し込み方法

*はがきでの演奏会のご案内をご希望の方……パンフレットに折込の申し込み用紙にてお申し込みください。お問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ [事務局 06-6136-1737 ◎事務局が変わりました。ご注意ください◎]

*メールでの演奏会のご案内をご希望の方……只今、メールでの演奏会のご案内およびインターネット上でチケットのお申し込みができるよう準備中です。詳細は当団ホームページをご覧ください。折込の申し込み用紙ではお申し込みできませんので、ご注意ください。

・友の会のみなさまの個人情報、演奏会のご案内など、当団の諸活動に關係する用途以外には、一切利用致しません。